



名鉄は愛知・岐阜県に路線を持つ鉄道会社で、路線の長さは444.2kmと日本の私鉄の中で3番目に長く、その歴史も大変古く、明治27年(1894年)に誕生し、今年で創業130周年をむかえました。

今でこそ名鉄電車のカラーといえば赤色ですが、開業当時から時代と共に様々なカラーが使用されていました。

今回は時代によってどのようなカラーが使われてきたのか調べてみました。

130th Anniversary

名鉄色いろ物語



名鉄が開業した当時、車体の色は濃い緑色をしていました。昭和12年に登場した3400系は濃い緑色と淡い緑色のツートンカラーで登場しました。その色合いから「いもむし」という愛称がつけられました。



昔は赤じゃなかった？

いま、蒲郡線や広見線で活躍している車両には、今回紹介した昔のカラーで走っている車両がいます。みなさんぜひ、普段とは違う色の電車をみてはいかがでしょうか？



ほんのわずかな期間だけ走った車両

昭和41年にはライトパープルという、うすい水色の車両が登場しましたが、その色合いが保護色といって周りの景色に溶け込んでしまい、危険なため、わずか2年で姿を消してしまいました。



カラフルな車両が続々登場
その後、昭和25年頃からはサーモンピンクにチヨコレット色のツートンカラーの車両が登場します。
このカラーは特急などの優等列車を中心に採用されました。

昭和42年以降には、ストロークリウムに赤帯の車両が登場しました。今まで濃い緑色やツートンカラーだった車両も多くがこのカラーに塗り替えられました。



今の赤色はスカイレットレッドといって、昭和36年に登場した7000系、ノラマカーから採用されました。当時は緑色の車両が多かった中で真っ赤な車体に驚いた人もたくさんいたと聞きました。
また、赤色の車両の中には白帯を巻いた車両もありました。これは特急専用の車両であること、この目印になっていて、車内はカーペットが敷いてあるなど、ほかの車両と比べて豪華になっていました。



祝！！名鉄創業130周年記念！！

平成16年に登場した2000系(ミュースカイ)では「空と海」を連想させる青と白のカラーとなっています。また、今年は創業130周年記念でこのミュースカイのカラーを逆転した「ブルーミュースカイ」が登場しました。



～編集後記～

普段よく乗っている電車は赤色ばかりだったので、昔の車両に使われていた色調べてみて、カラフルな電車がたくさん走っていたことを知りとてもおどろきました。20年後、30年後の名鉄電車は何色の車両が走っているのか想像してみるととても楽しみです。ブルーミュースカイはまだ乗ったことがないので、早く乗ってみたいと思いました。